スマイルプリキュア!

名作えほん

ももたろう

そんごくう

シンデレラ

いっすんぼうし

うらしまたろう

おともだち
スーパーワイド百科 63

プリキュアと おはなしの せかいへ!

スマイルプリキュア!
SMILE PRECURE!

映画スマイルプリキュア!
SMILE PRECURE!
絵本の中はみんなチグハグ!

本作品は、2012年9月、小社よりおともだちスーパーワイド百科⑥③として刊行されたものを電子書籍化したものです。

◎本電子書籍内の外部リンクに関して

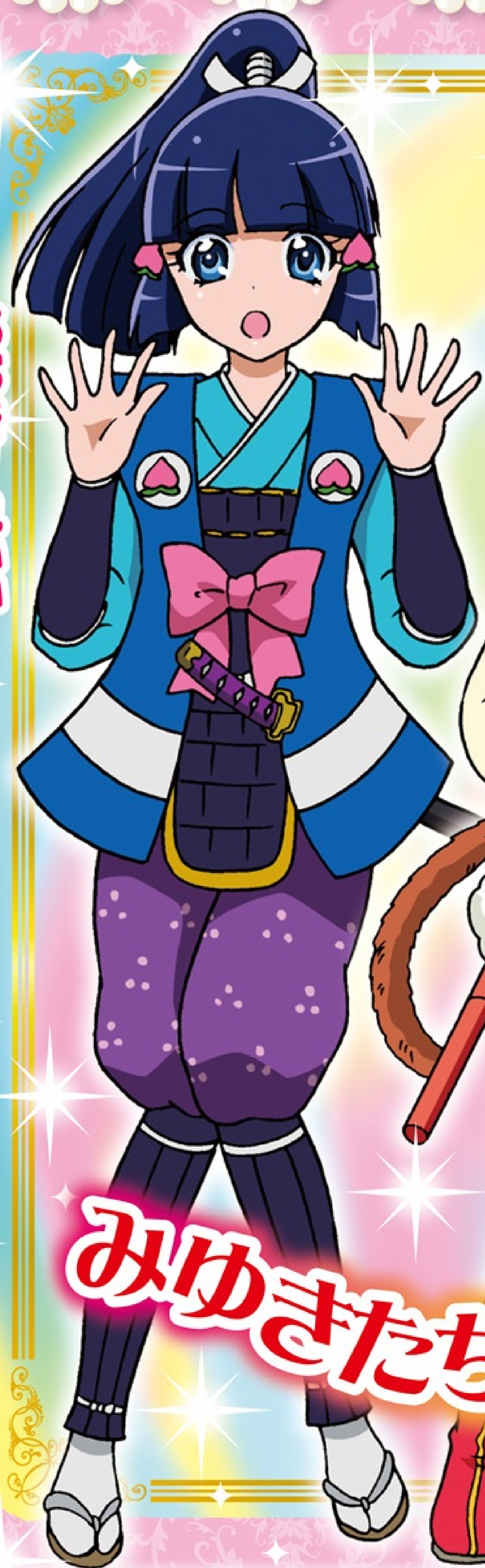
ご利用の端末によっては、リンク機能が制限され正しく動作しない場合があります。また、リンク先のwebサイト、メールアドレス、電話番号は、事前のご連絡なく削除あるいは変更されることもございます。ご了承ください。

スマイルプリキュア！
名作えほん

2016年3月1日発行

絵　　東映アニメーション
構　成　　萩谷美可
デザイン　バッドビーンズ

発行者　清水保雅
発行所　株式会社 講 談 社
東京都文京区音羽2-12-21
〒112-8001


あおき れいか


きせ やよい


ほしぞら みゆき


ひの あかね


みどりかわ なお

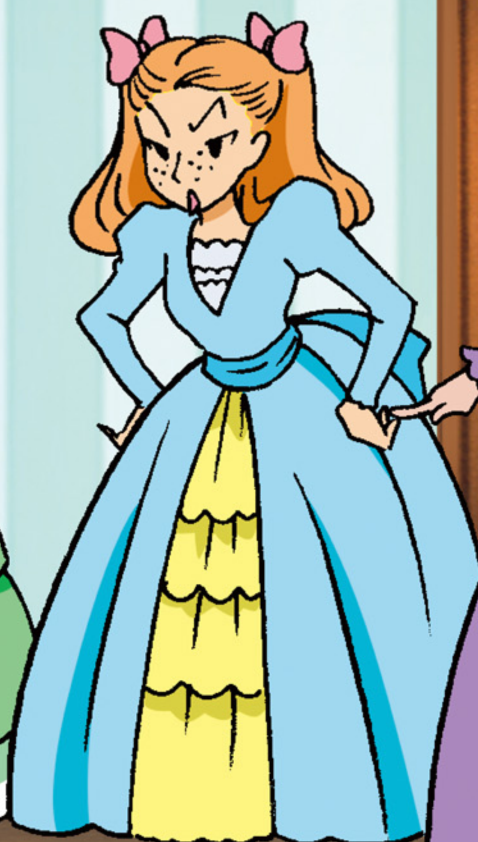
みゆきたちは えほんの せかいに すいこまれちゃった!

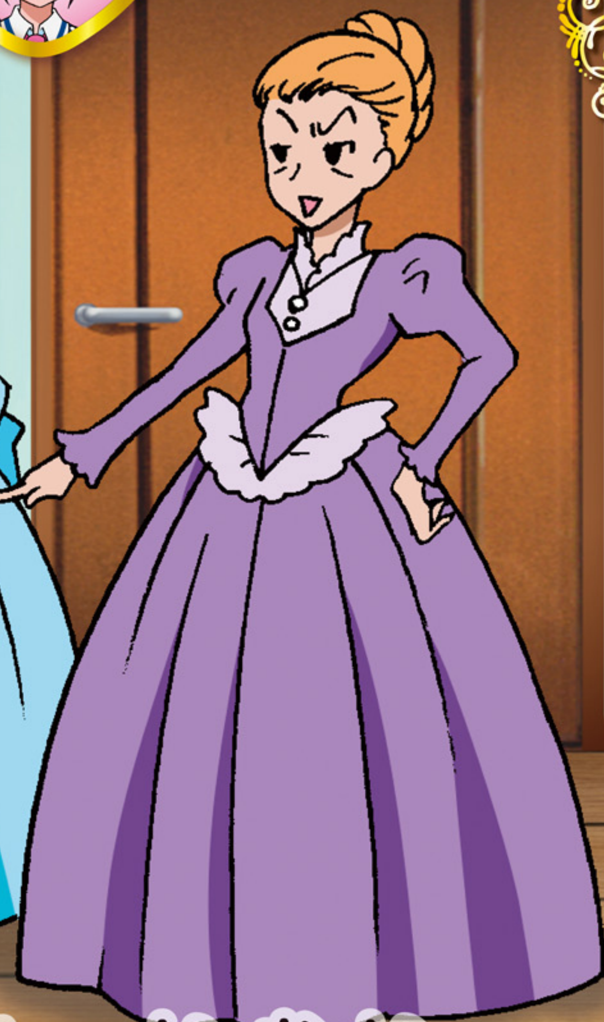
名作えほん もくじ

シンデレラ









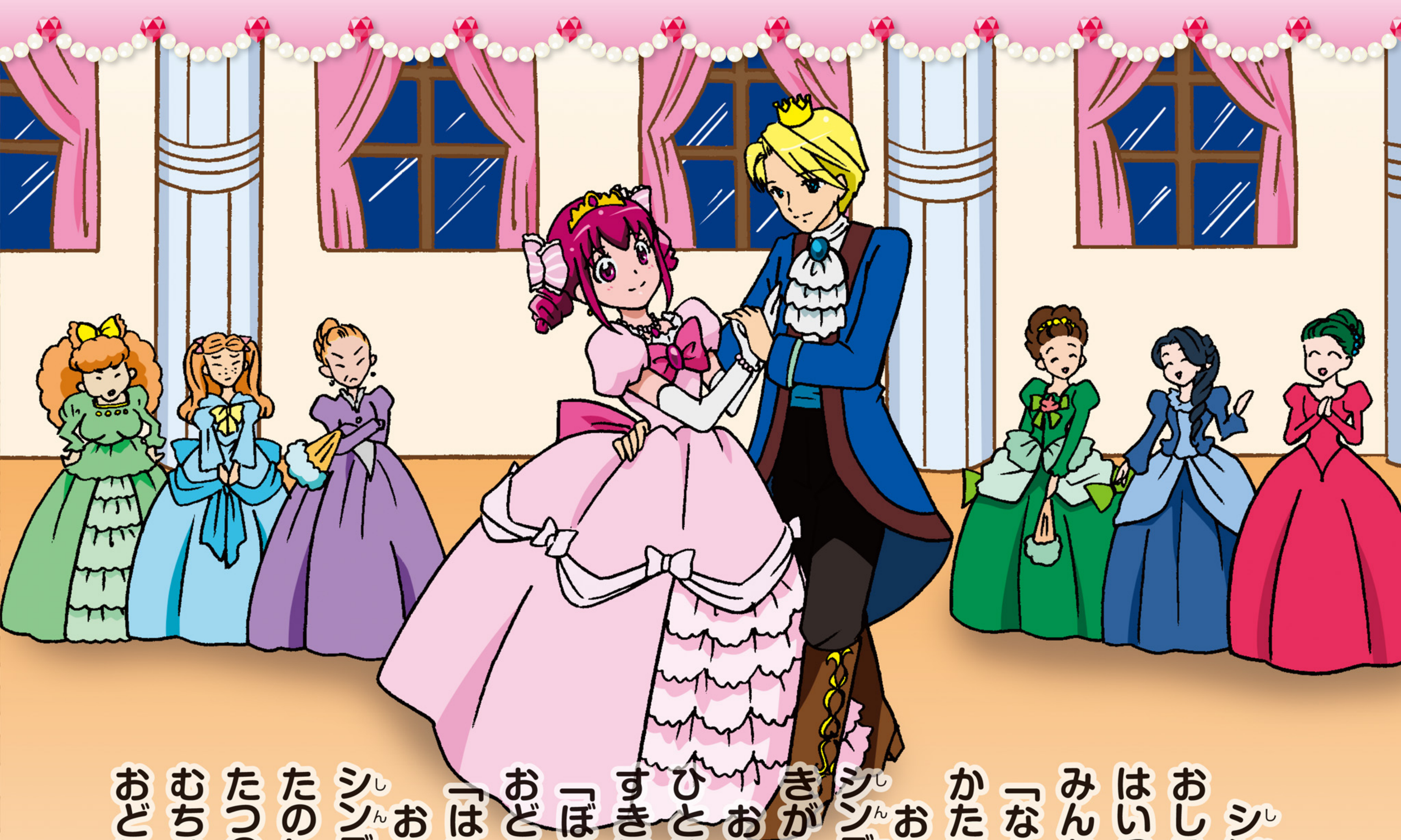
むかし、シンデレラと
いう　こころの　やさしい
おんなの　こが
いました。
シンデレラの
あたらしい　おかあさんと
ふたりの　おねえさんは、
とても　いじわるなのです。
「そうじも　せんたくも
ぜんぶ　おまえ
ひとりで　やるんだよ。」
シンデレラは
いっしょうけんめい
はたらきました。




ある　ひ、
おねえさんたちは
きれいな　ドレスを
きて、　おしろの
ぶとうかいに　いって
しまいました。
「シンデレラは
もちろん　るすばんだよ。」
ひとりに　なった
シンデレラは、　しくしく
ないて　しまいました。
「わたしも　ドレスを
きて　ぶとうかいへ
いきたい。」
そこへ　とつぜん、
まほうつかいが
あらわれました。
「おまえを
ぶとうかいへ
いかせて　あげよう。」

まほうつかいが
つえを　ふると、
シンデレラの　ふくは
うつくしい
ドレスに、かぼちゃは
ばしゃに、ねずみは
うまに　なったのです。
「十二じまでに
かえらないと、もとの
すがたに　もどって
しまうからね。」





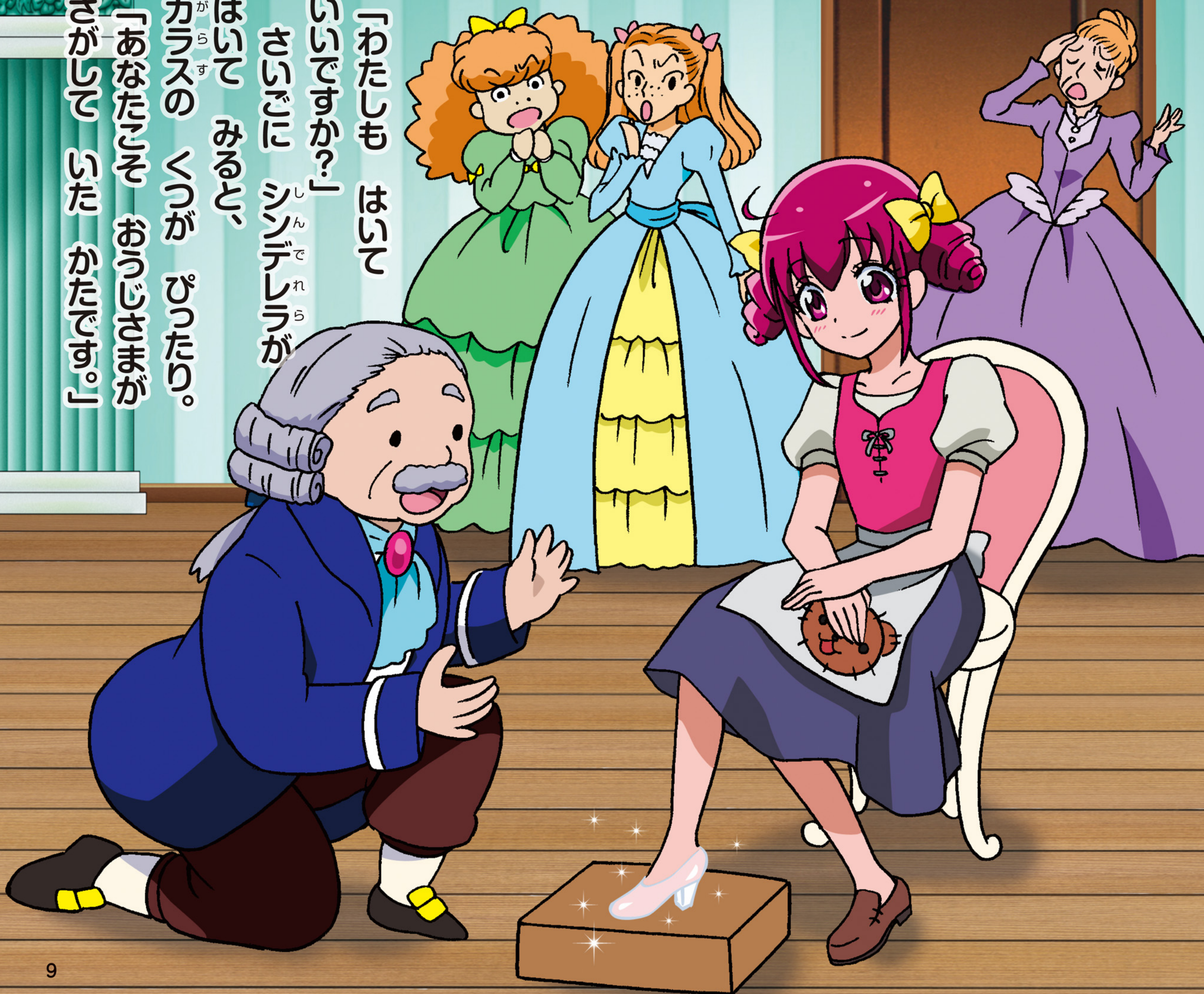
シンデレラが
おしろの　ひろまへ
はいって　いくと、
みんな　びっくり。
「なんて　うつくしい
かたでしょう。」
おねえさんたちは
シンデレラに
きが　つきません。
おうじさまは、
ひとめで　シンデレラを
すきに　なりました。
「ぼくと
おどって　ください。」
「はい、おうじさま。」
おうじさまと
シンデレラは
たのしくて、ときの
たつのも　わすれ、
むちゅうで
おどりつづけました。

ぼーん、ぼーん。
十二じを
しらせる　かねが
なりはじめました。
「あっ、かえらなくては！」
シンデレラは
あわてて　ひろまを
とびだしました。
かいだんの
とちゅうで、
ガラスの　くつが
かたほう　ぬげて
しまいました。



まほうが　とけると、シンデレラは
はいだらけの　ふくに、ばしゃは　かぼちゃに、
うまは　ねずみに　もどって　しまいました。

「この　ガラスの　くつが
ぴったりの　ひとを
さがして　くれ。」
おうじさまの
めいれいで、けらいたちが
くにじゅうの　いえを
たずねました。
シンデレラの
いえにも
やって　きました。
でも、おねえさんたちは
あしが　おおきくて、
くつが　はいりません。



「わたしも　はいて
いいですか？」
さいごに　シンデレラが
はいて　みると、
ガラスの　くつが　ぴったり。
「あなたこそ　おうじさまが
さがして　いた　かたです。」


シンデレラは
おしろへ
むかえられて、
いつまでも　しあわせに
くらしました。
（おわり）

いっすんぼうし



むかし、
ある　ところに
こどもの　いない
ふうふが　いました。
ふたりは　かみさまに
おねがいを　しました。
「どんなに
ちいさくても
いいですから、
こどもが
できますように。」
すると、　ほんとうに
とても　ちいさな
おとこの　こが
うまれたのです。
ふたりは
おおよろこび。
おとこの　こに
「いっすんぼうし」と
なまえを　つけて
かわいがりました。

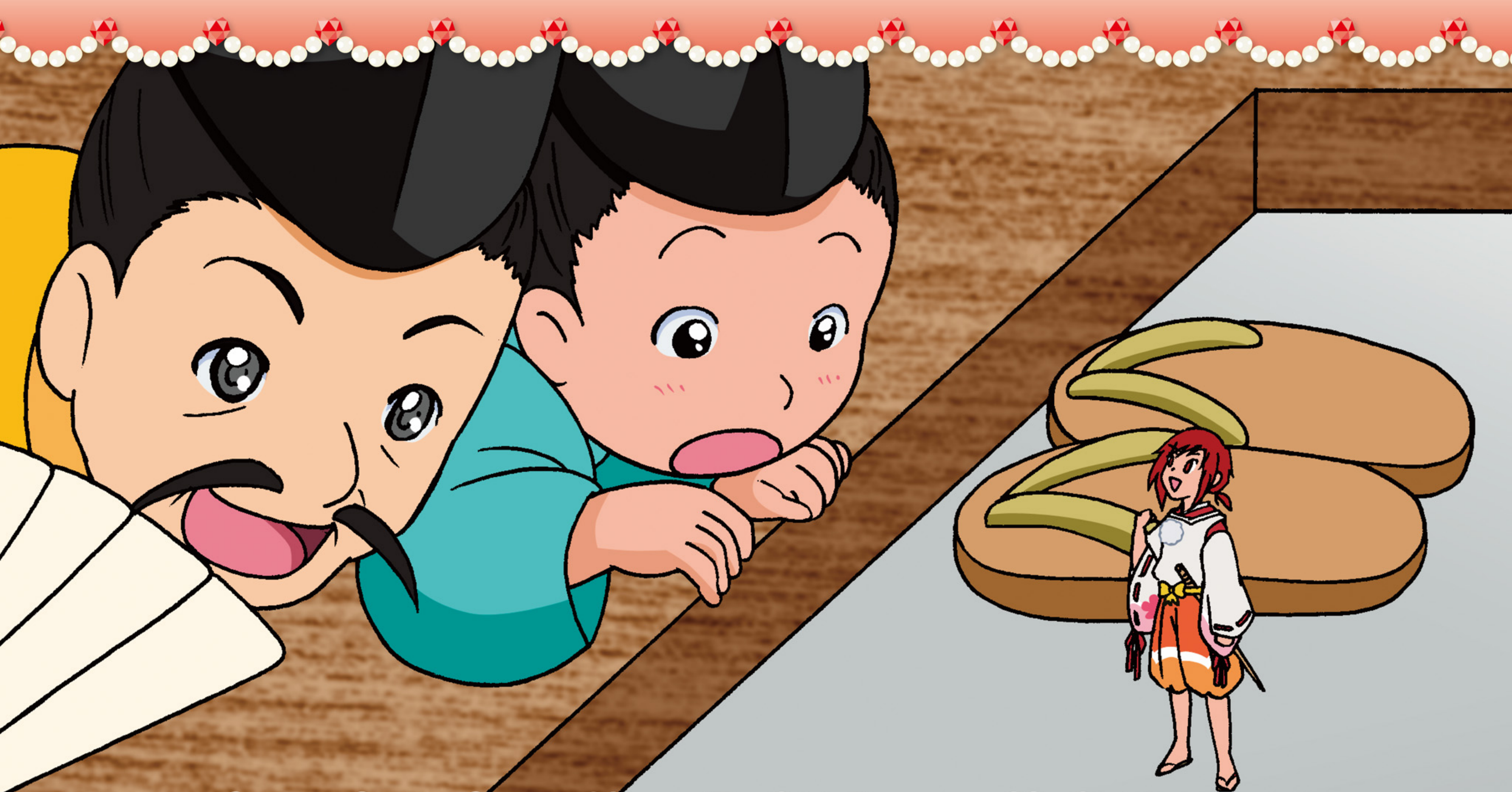
ところが、
いっすんぼうしは
なんねん　たっても
ちいさい　ままです。
それでも、げんきいっぱいで
かしこい　おとこの　こに
そだちました。
ある　ひ、いっすんぼうしは
おとうさんと　おかあさんに
いいました。
「みやこへ　いって、りっぱな
さむらいに　なりたいと
おもいます。ぼくに　おわんと
はしと　はりを　ください。」
そして、かたなの　かわりに
はりを　こしに　さして、
おわんの　ふねを　はしで　こいで、
かわを　くだって　いきました。











ぶじに　みやこに
ついた　いっすんぼうしは、
おおきな　おやしきに
はいって　いきました。
「たのもう、たのもう！」
げんかんで　さけぶと、
でて　きた　けらいは
ちいさな　おとこの　こを
みて、びっくり。
「どうか　この　いえで
はたらかせて　ください。」
げんきよく　あいさつを
したので、とのさまは
いっすんぼうしを
とても　きに　いりました。
「よし、けらいに
して　やろう。」



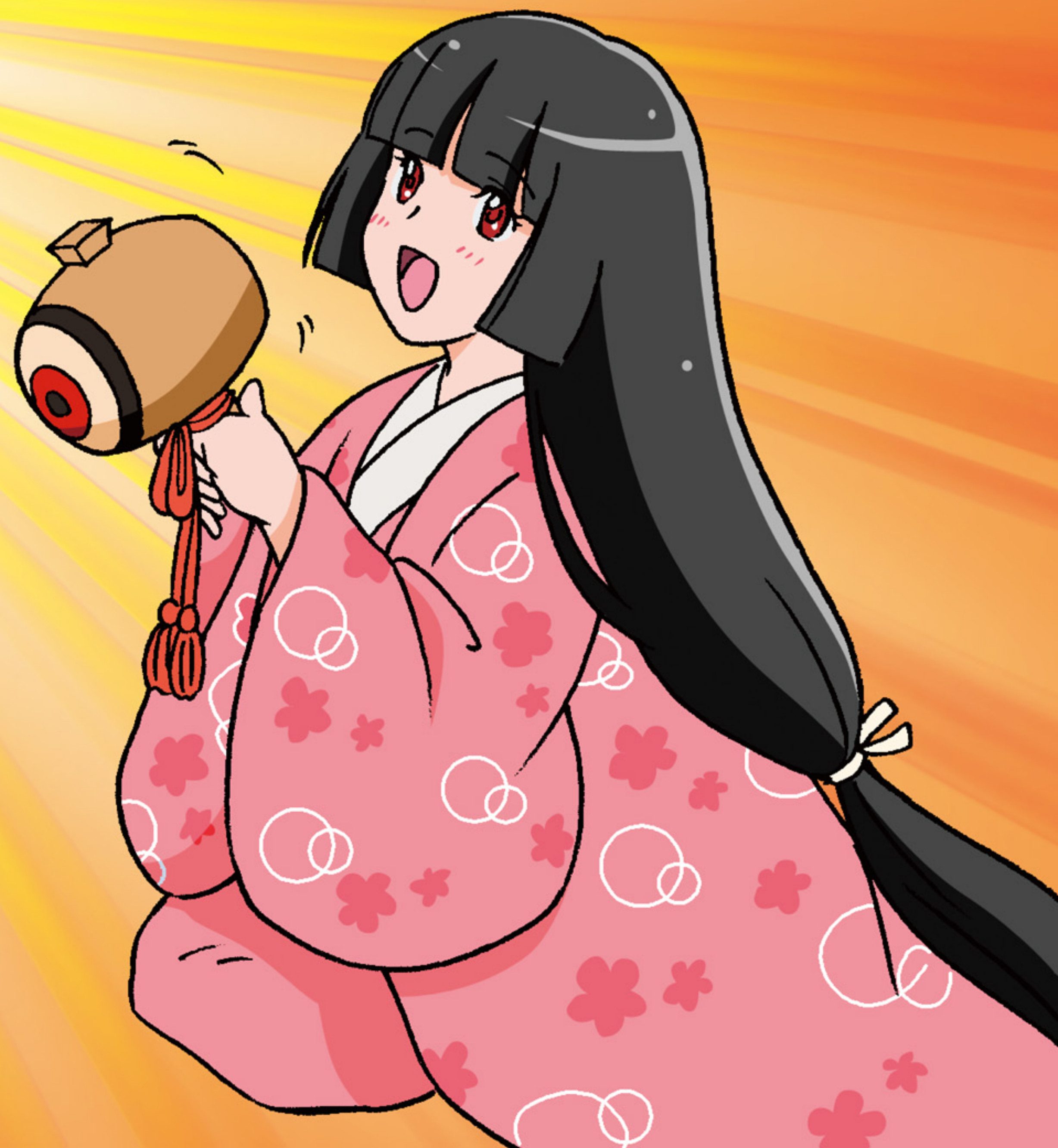
ある ひ、 おひめさまは
いっすんぼうしを つれて、
おてらへ おまいりに
でかけました。
すると、 とちゅうで
おそろしい おにが
おひめさまを さらおうと
おそって きました。
「きゃあ、 たすけて〜！」

「よし、ぼくが　あいてだ！」
　いっすんぼうしは
ゆうかんに、はりの　かたなで
おにに　むかって　いきました。
　おにに　ぱくりっと
のみこまれても、
おなかの　なかを　ちくり
ちくりと　おおあばれ。
「いたたた。やめて　くれ〜。」




おには
いっすんぼうしを
はきだして、
にげて　しまいました。
「ありがとう、
いっすんぼうし。」
おひめさまは、
おにが　みちに
おとして　いった
こづちを　みつけました。
「これは　なんでも
のぞみが　かなう、
うちでのこづちだわ。」
「それでは、ぼくが
おおきく　なるように
して　ください。」
おひめさまは、
こづちを
しゃんしゃんと
ふりました。

「いっすんぼうしよ、
おおきく　なあれ、
おおきく　なあれ。」
　するとか、みるみる
うちに、いっすんぼうしの
せが　のびて
りっぱな　わかものに
なりました。
めでたし　めでたし。
（おわり）



そんごくう



むかしむかし、やまの　てっぺんに、いしの　たまごが　のって　いました。

ある　ひ、いしの　たまごが　ぱかっと　われて、いしざるが　うまれました。

げんきな　いしざるは、やまの　さるたちの　おうさまに　なり、たのしく　くらして　いました。

「そうだ。もっと　つよく　なる　ために、せんにんに　あいに　いこう！」

せんにんの　でしに　なった
いしざるは、「そんごくう」と　いう
なまえを　もらいました。
たくさん　しゅぎょうを　して、
いろいろな　じゅつを　おぼえました。
そして、きんとうんと　いう　くもに
のって、やまへ　かえりました。



※じゅつ＝まほうの　こと

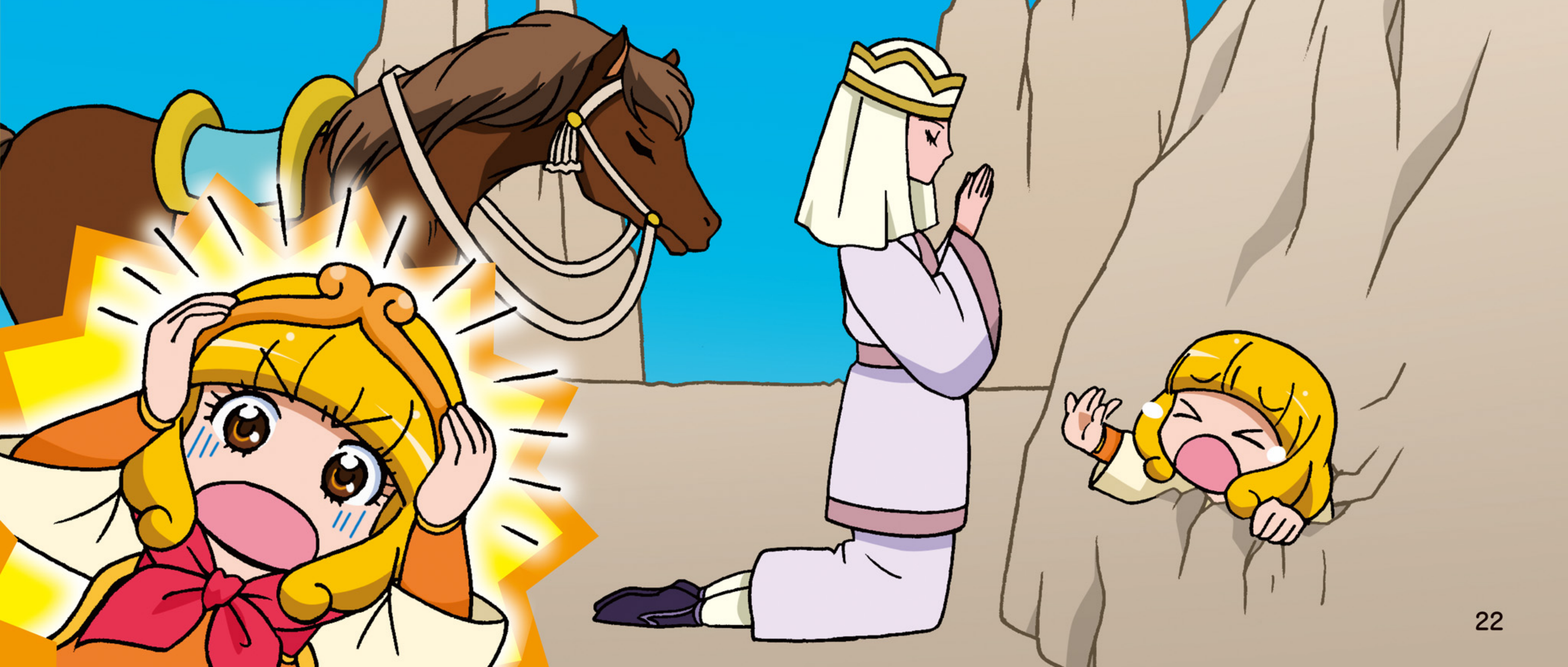


そんごくうは、
うでだめしに、じゅつを
つかって　ようかいを
たいじします。
そして、にょいぼうと
いう、のびたり
ちぢんだり　する　ぶきで
おおあばれ。
「へへっ、これで
えらく　なったぞ。」

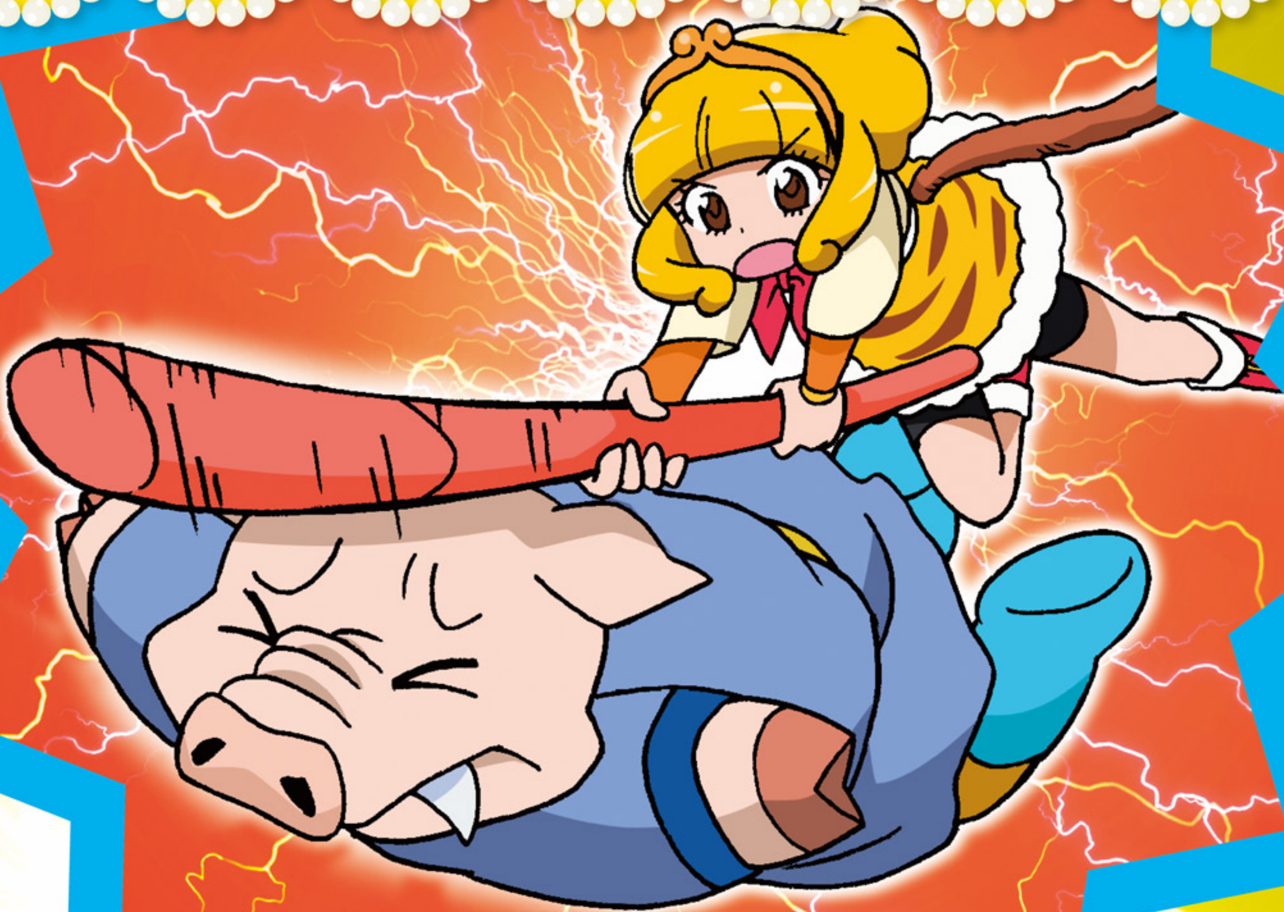
とくいに　なって
あばれる
そんごくうの　まえに、
ある　ひ、おしゃかさまが
あらわれました。
「みんなを　こまらせた
ばつですよ。」
おしゃかさまは
そんごくうを、いわやまへ
とじこめて　しまいました。
そして、五ひゃくねんが
すぎて　いきました。



ある　ひ、
さんぞうほうしが
とおりかかりました。
　そんごくうは
なきながら　たのみます。
「おねがいです。
ここから
だして　ください。
　だして　くれたら、
でしに　なります。」
　さんぞうほうしが　いのると、
いわやまが　くだけました。
　しかし、そんごくうは
にげだそうと　します。
　その　とき、
そんごくうの
あたまに、
きんの　わが
つけられて、しめつけました。
「いたい。もう　にげません！」
　さんぞうほうしが
いのるのを　やめると、
いたみが　とれました。



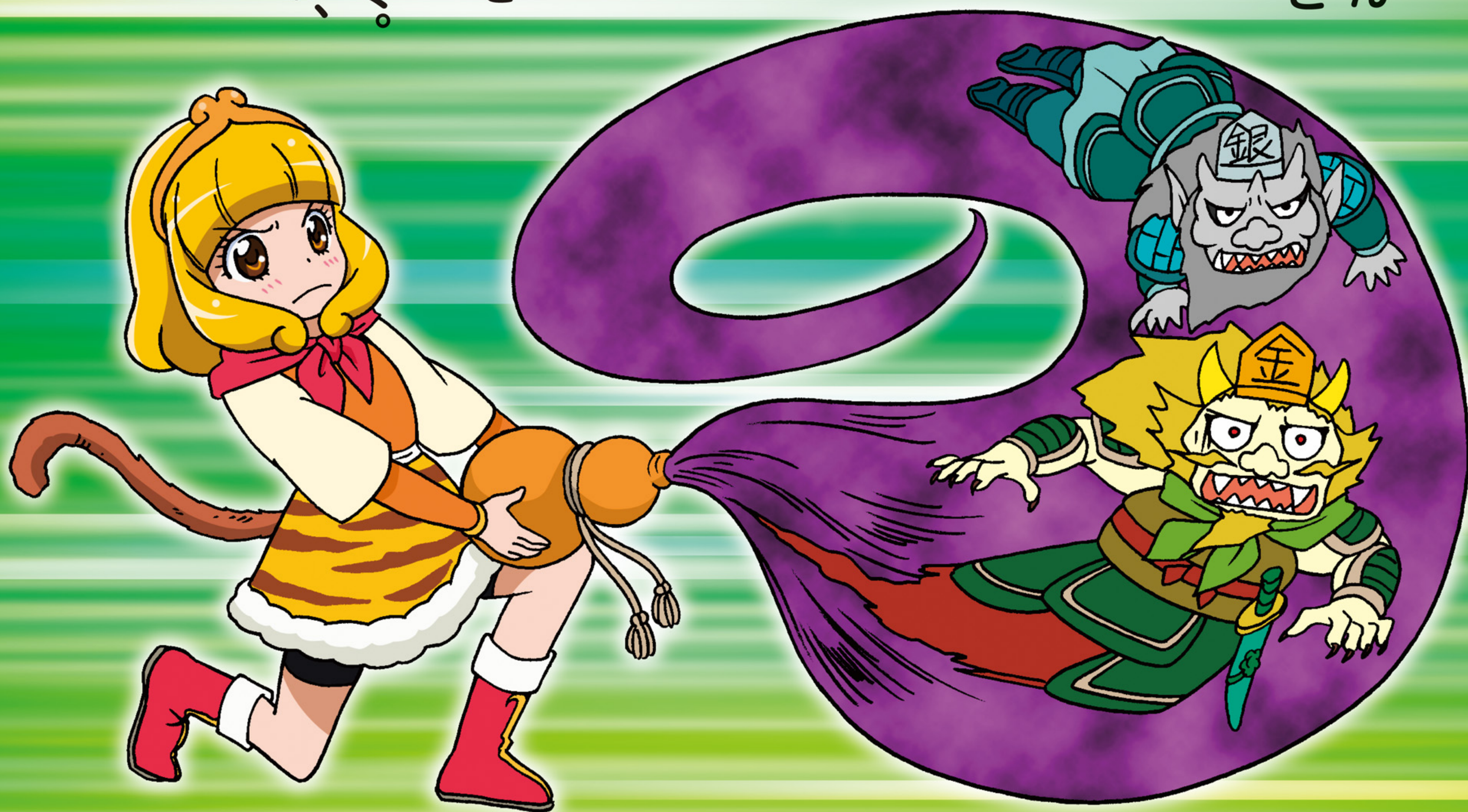
こんどは、
かわで　あばれる
さごじょうと　いう
かっぱを
たいじしました。
　さごじょうも、
さんぞうほうしの
おともに　くわわりました。

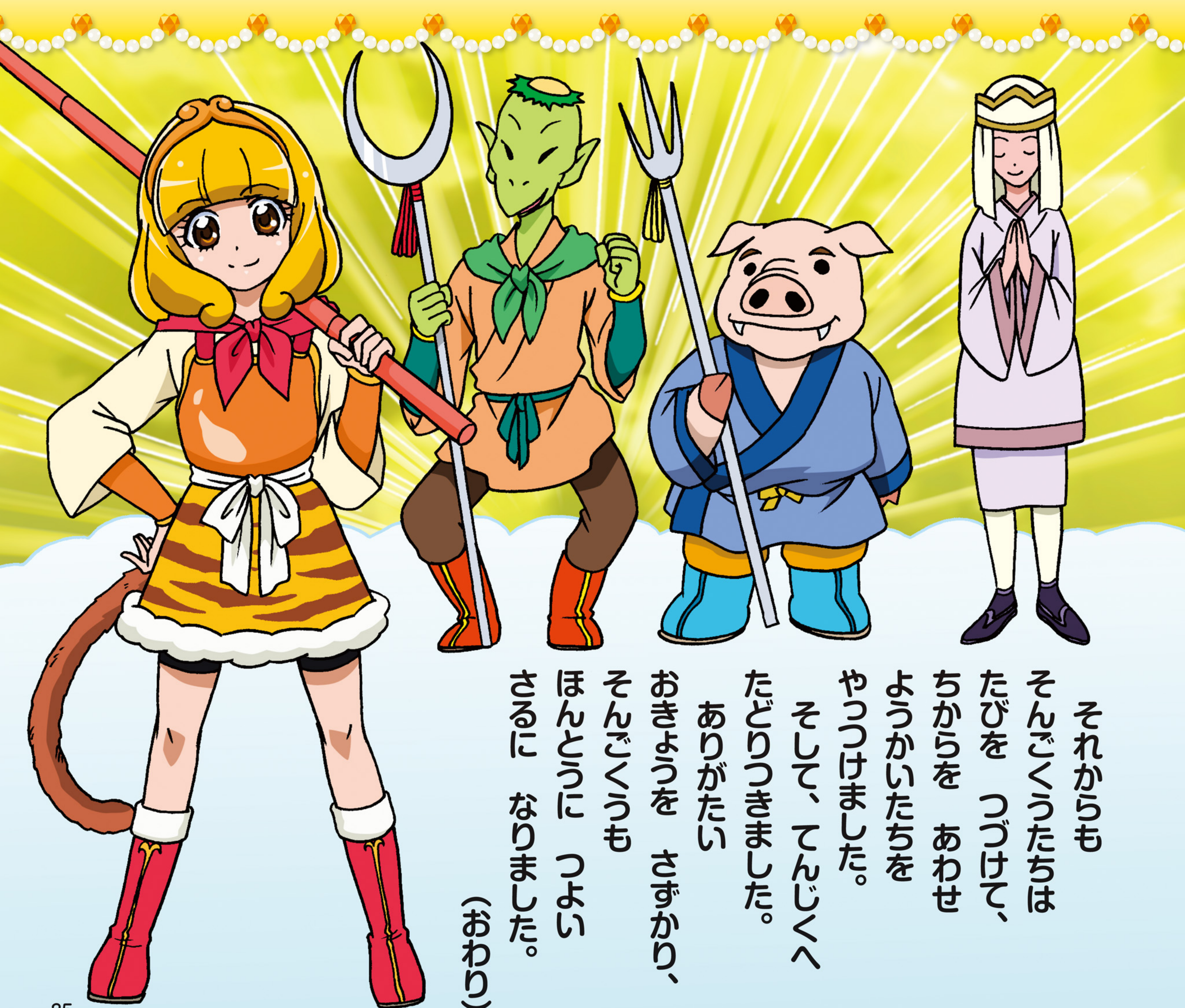




　そんごくうが、
さんぞうほうしと
たびを　して　いると、
むらで　あばれる
ちょはっかいと　いう
ぶたを　みつけ、　みごとに
たいじしました。
　ちょはっかいは、
おともに　くわわりました。

ある　ひ、とつぜん
きんかく、ぎんかくと
いう　ようかいが
おそって　きました。
そんごくうは、
へんじを　すると
なんでも
すいこんで　しまう
ひょうたんを、
ぎんかくから
うばいます。
「おい！　きんかく、
ぎんかく。」
「なんだ！」
おもわず　へんじを
して　しまった、
きんかくと　ぎんかく。
あっと　いう　まに、
ひょうたんに
すいこまれて
しまいました。





それからも
そんごくうたちは
たびを　つづけて、
ちからを　あわせ
ようかいたちを
やっつけました。
　そして、てんじくへ
たどりつきました。
　ありがたい
おきょうを　さずかり、
そんごくうも
ほんとうに　つよい
さるに　なりました。

（おわり）

うらしまたろう



むかし、
ある　むらに、
うらしまたろうと
いう　わかものが
いました。
　ある　ひ、はまべへ
いくと、こどもたちが
かめを
いじめて　います。
「かわいそうに。
はなして
やりなさい。」
　うらしまたろうは
かめを　たすけて、
うみへ　にがして
あげました。

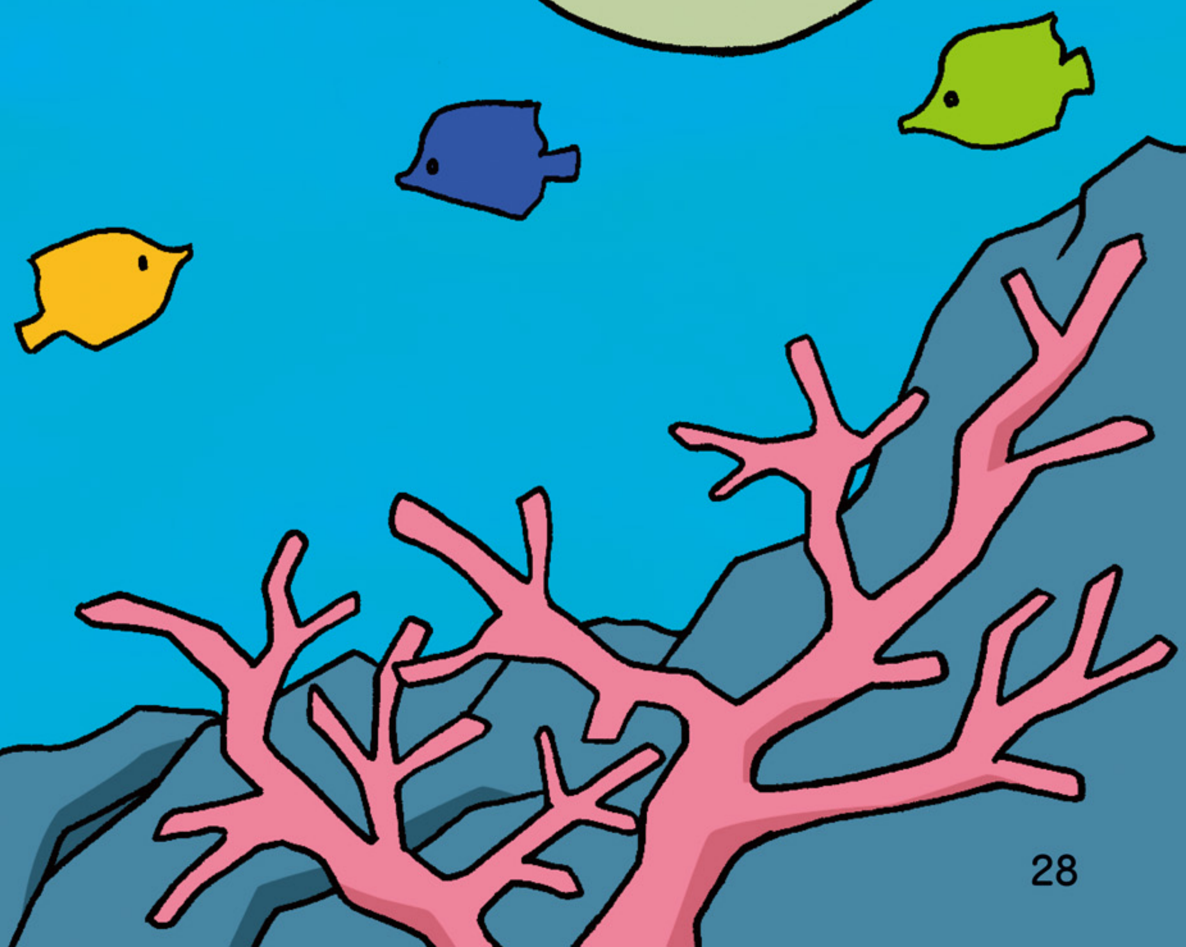
しばらく　して、うらしまたろうが
つりを　して　いると、うみの
なかから　かめが　あらわれました。
「あの　ときは、たすけて
くれて　ありがとう　ございました。
おれいに　りゅうぐうじょうへ
ごあんないします。」
うらしまたろうは　よろこんで
かめの　せなかに　またがりました。



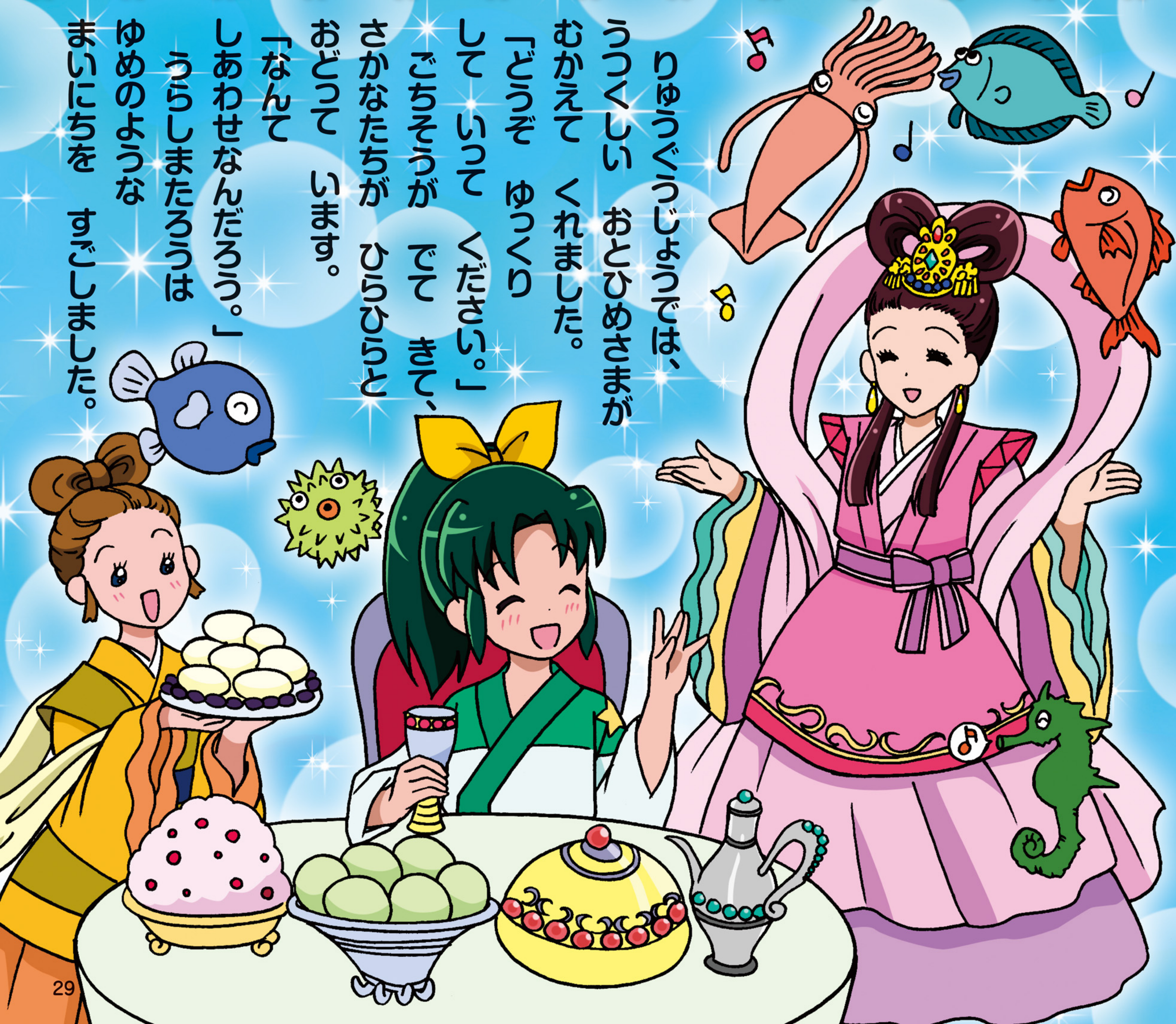
うらしまたろうを
のせて、
かめは　すいすい
もぐって　いきました。
「うらしまたろうさん、
りゅうぐうじょうは
もう　すぐです。」

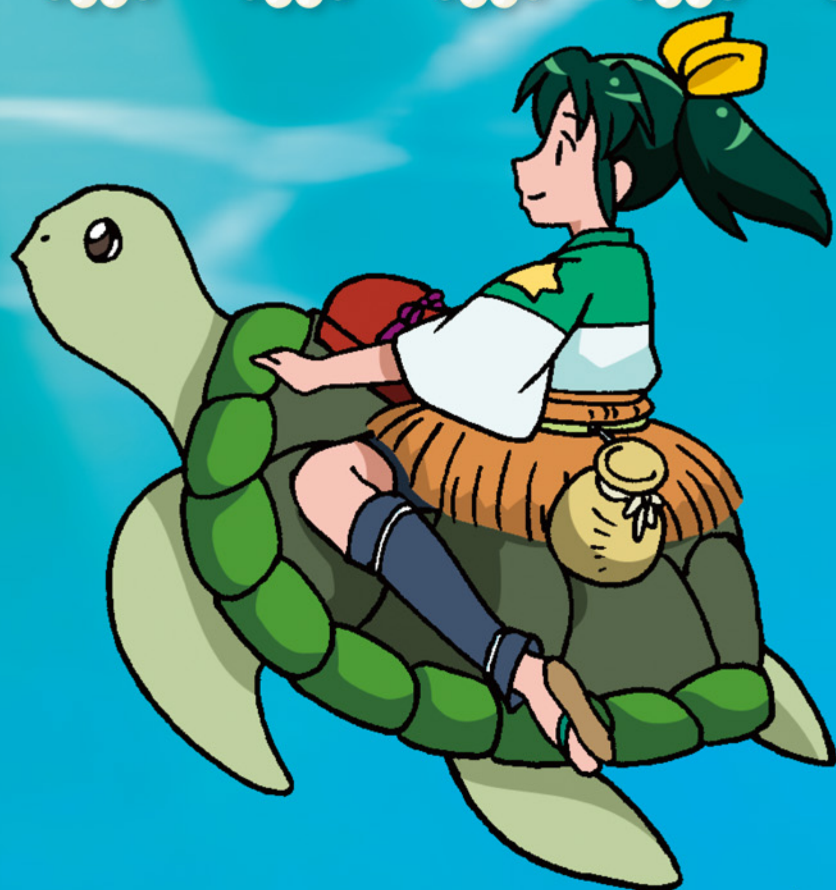






りゅうぐうじょうでは、
うつくしい　おとひめさまが
むかえて　くれました。
「どうぞ　ゆっくり
して　いって　ください。」
ごちそうが　でて　きて、
さかなたちが　ひらひらと
おどって　います。
「なんて
しあわせなんだろう。」
　うらしまたろうは
ゆめのような
まいにちを　すごしました。







　ある　ひ、
うらしまたろうは、
ふるさとの
むらを　おもいだしました。
「おとひめさま、
わたしは　そろそろ
いえに　かえる
ことに　します。」
「では、おみやげに
この　たまてばこを
あげましょう。
　でも、けっして
あけては　いけませんよ。」

うらしまたろうが
かめに　のって
はまべへ　かえると、
むらの　ようすが　すっかり
かわって　いました。
しらない
ひとばかりです。
「うらしまたろうの
いえを　しりませんか？」
「はて？　それは
ひゃくねんも　まえに
うみへ　いった　まま
かえって　こなかった
ひとですよ。」
「なんだって！」



びっくりした
うらしまたろうは、
つい、たまてばこの　ふたを
あけて　しまいました。
すると、なかから
しろい　けむりが
もくもく　もくもく。
あっと　いう　まに
まっしろい　ひげの　かおに
なって　しまいました。

（おわり）

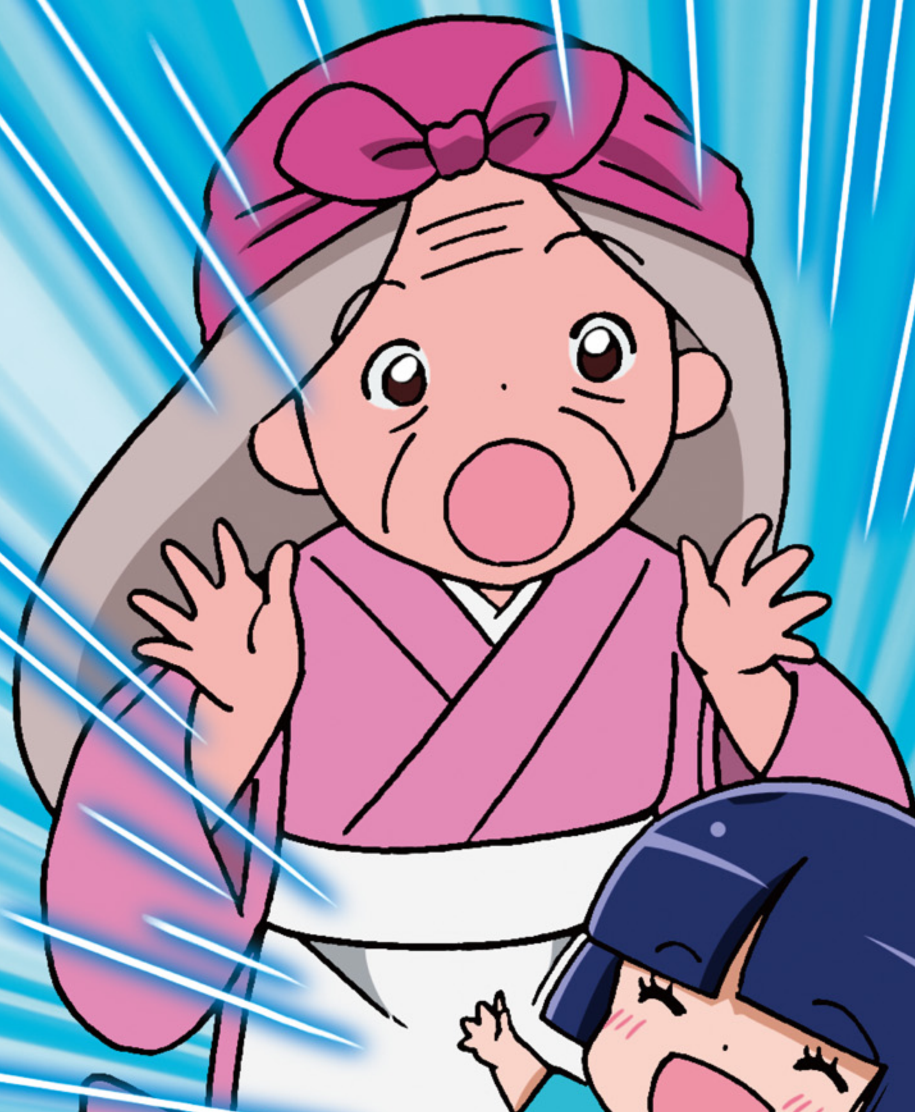


ももたろう



むかし、
ある　ところに
おじいさんと
おばあさんが　いました。
ある　ひ、
おじいさんは
やまへ　しばかりに、
おばあさんは　かわへ
せんたくに　いきました。
すると、かわから
どんぶらこ、
どんぶらこと、
おおきな　ももが
ながれて　きたのです。
「おやまあ、なんて
みごとな　ももだこと。
おじいさんと
たべましょう。」
どっこいしょと、
ももを　かかえて
いえに　かえりました。

さっそく　ももを
きろうと　すると、
ぱかん！と
ももが　われました。
なんと、ももの　なかから
げんきな　あかちゃんが
とびだして　きたのです。
「まぁ　かわいらしい。
うちの　こに　して
そだてましょう。」
「ももから　うまれたから、
なまえは
ももたろうじゃ。」








ももたろうは　すくすくと
おおきく　なりました。
その　ころ　むらでは、おにが
きて　あばれまわり、むらの
ものを　とって　いくので
みんなが　こまって　いました。
「おじいさん、おばあさん、
おにたいじに　おにがしまへ
いって　きます！」
ももたろうは、おばあさんに
おいしい　きびだんごを
つくって　もらうと、げんきに
でかけて　いきました。

はじめに、いぬに
あいました。
「ももたろうさん。
どこへ　いくのですか。」
「おにたいじに
おにがしまへ
いくんだ。」
「わんわん、
きびだんごを
一つ　ください。
おともします。」
つぎに、さるに
あいました。
「きゃっ、きゃっ、
きびだんごを
一つ　ください。
おともします。」
つぎは、きじです。
「け〜ん、け〜ん、
きびだんごを
一つ　ください。
おともします。」



こうして、ももたろうと　いぬと
さると　きじは、ふねに　のって
おにがしまへ　むかいました。
「さあ、いよいよ　おにがしまだ！」




「わるい　おにたちめ。
かくごしろ！」
ももたろうたちは、
きびだんごを
たべて　いるので
げんきいっぱいです。
いぬは　かみつき、
さるは　ひっかき、
きじは　つつきます。
そして　ももたろうは、
おにの　おやぶんを
なげとばしました。



「どうか　ゆるして　ください。
とって　きた　ものは、
すべて　おかえしします。」
おにたちは　こうさんです。
ももたろうは、　たくさんの
たからものを　もって、
むらへ　かえって　いきました。

（おわり）

どう みんな、
たのしかった？

えほんの せかいから
もどって きたわ。





こたえ＝①「シンデレラ」の ガラスの くつ、②「いっすんぼうし」の おわん、③「そんごくう」の きんの わ、
④「うらしまたろう」の たまてばこ、⑤「ももたろう」の きびだんご。

映画 スマイルプリキュア! 絵本の 中は みんな チグハグ!

映画スマイルプリキュア! SMILE PRECURE! 絵本の中はみんなチグハグ!

えいがの
なかでも
おなじ　五つの
ものがたりの
しゅじんこうに
なった
プリキュアたちが
かつやくするよ。
たのしみね!

ニコ

あこがれの
シンデレラに
なれるなんて、
ウルトラハッピー!



キャンディも
がんばるクル!

えいがかんで あおうね!

プリキュアの えいがで えほんの せかいへ いこう!



ISBN978-4-06-350363-0　C9474
雑誌　61201-84

おともだちスーパーワイド百科63
スマイルプリキュア!
名作えほん
2012年9月5日　第1刷発行
■発行者　持田克己
■発行所　株式会社　講談社
東京都文京区音羽2-12-21(〒112-8001)

■印刷・製本／図書印刷株式会社
■絵／東映アニメーション
■構成／萩谷美可　■デザイン／バッドビーンズ